

科目名	日本語教育文法			ナンバリング	JPN132	授業形態	講義
対象学年	2	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	玉懸元	担当教員					

授業の概要	<p>教養学部地域教養学科では、日本語学・日本語教育学に関する科目として「日本語学習アドバイジング」「日本語教育法1」「日本語教育法2」「日本語教育実習」といった科目を用意している。この「日本語教育文法」は、これからそうした科目を学んでいこうかと考えている人にとって、学びのガイドとなるよう組み立てた。</p> <p>日本語教育についてよくある思い込み(たとえば「日本語教育とは英語を使って日本語を教えるものだ」という先入観)が誤解であるといったことから学びはじめ、日本語教育と日本史とのかかわりや、さまざまな外国語教授法との関係についても学ぶ。また、日本語教員が備えておくべき知見として「異文化交流」「日本語の多様性」に関する学修にも及ぶ。以上がこの授業の目標である。</p> <p>(※)日本語教員を目指す人はもちろん、「日本文化と外国文化のちがい」「外国人との付き合い方」「効率的な外国語の学び方」といったトピックに関心ある人の受講も期待している。</p>
到達目標	<p>(1) 現代の日本語教室における一般的な授業の仕方について説明できること。</p> <p>(2) 現代の日本語教授法がどのような外国語教授法を取り入れて成立したものであるかを説明できること。</p> <p>(3) 近代以降の日本史と日本語教育の発展とがどのようにかわるものであるかを説明できること。</p> <p>(4) 日本語学習者をしばしば戸惑わせる日本文化のありさまについて、具体例を挙げて説明できること。</p> <p>(5) 方言や若者ことばなど、日本語が有する多様な姿について、具体例を挙げて説明できること。</p>
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<ul style="list-style-type: none"> ・「日本語学習アドバイジング」も履修することが望ましい。 ・授業時間中に受講生同士で議論する時間を設ける。積極的に意見を交わしてもらいたい。 ・授業時間中には、ここに示した参考書以外にも、授業内容の理解や発展的考察に役立つ文献等を多数紹介する。受講生それぞれ、自学に活用してほしい。
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】
	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。
	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。
	○ 3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。
	○ 4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。
	○ 5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
(1) 授業で課されるすべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。	<p>(1) 毎回の授業において発言の回数等から意欲・関心が認められ、すべての課題に真摯に取り組み、提出すべきものを提出している。</p> <p>(2) 現代の日本語教室における一般的な授業の仕方について説明できる。</p> <p>(3) 現代の日本語教授法がどのような外国語教授法を取り入れて成立したものであるかを説明できる。</p> <p>(4) 近代以降の日本史と日本語教育の発展とがどのようにかわるものであるかを説明できる。</p> <p>(5) 日本語学習者をしばしば戸惑わせる日本文化のありさまについて、具体例を挙げて説明できる。</p> <p>(6) 方言や若者ことばなど、日本語が有する多様な姿について、具体例を挙げて説明できる。</p>

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		60%
宿題・授業外レポート	○	○			○		20%
授業態度・授業への参加		○	○	○			20%

課題、評価のフィードバック	<p>原則として毎時間、授業の終わりに、当日の授業内容に関連する課題を提出してもらい、授業後、提出された課題から、クラス全体で共有しておくことが有益と考えられるものを選出する。翌週(原則)の授業で、選出していただいた課題を適宜プロジェクター等も活用しながらクラス全体に紹介し、教員のコメントを加える。以上をもって課題に対するフィードバックとする。</p>
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	この科目全体のガイダンスを行う	
	第2回	日本語教育を学ぶ出発点(1)	外国語の教え方のうち「直接法」について	
	第3回	日本語教育を学ぶ出発点(2)	日本語教育で用いる「活用表」について	
	第4回	日本語教育を学ぶ出発点(3)	三上章らの「主語」に関する議論について	
	第5回	日本語教育の歴史(1)	19世紀末から20世紀前半の日本史と日本語教育とのかかわりについて	
	第6回	日本語教育の歴史(2)	「オーラル・メソッド」「オーディオリンガル・メソッド」という教授法について	
	第7回	日本語教室の実際	日本語教室の授業とは、どんなものか	
	第8回	異文化交流(1) 断りの異文化	日本文化において誘いや依頼を断るときにはどのような手順が踏まれるか	
	第9回	異文化交流(2) あいづちの異文化	日本語母語話者の会話ではどのようなタイミングであいづちが打たれるか	
	第10回	異文化交流(3) 賞賛の異文化	日本文化において「誉める」行為の対象になる人はどのようなカテゴリーの人々であるか	
	第11回	日本語の多様性(1)	日本語の地域差(方言)について 全国編	
	第12回	日本語の多様性(2)	日本語の地域差(方言) いわき編	
	第13回	日本語の多様性(3)	自身の身のまわりで観察されることばの世代差について	
	第14回	日本語の多様性(4)	自身の身のまわりで観察されることばの男女差について	
	第15回	まとめと試験	第1回～第14回の授業を振り返り、この授業で学んだことをまとめる。また、その理解度を問うための試験を行う	
		試験	定期試験は行わない。	
授業の進め方	原則として講義形式。文献講読やディスカッションも行う。適宜、授業内で小テスト、授業外で宿題を課す。			
授業外学習の指示	参考書を活用しながら、各回の授業内容について予習・復習を行うこと。 (授業外学習時間： 毎週 180 分)			

教科書	適宜、資料を配付する。
参考書	荒川洋平(2016)『日本語教育のスタートライン』スリーエーネットワーク その他、授業中に指示する。
参考URLなど	授業中に指示する。
その他	